

(特非) 持続可能な社会をつくる元気ネット

「連携で共創する地域循環圏めざして～個別リサイクル法見直しに向けたマルチステークホルダー会議」の開催

マルチステークホルダー会議	3回
全国500人へのアンケート調査回収量	466人
活動の全体目標に対する達成度	100%



最新情報の共有と率直な意見交換の場

◆成果と工夫したポイント

●成果

都内では、企業・スーパーマーケットの連携の環が、ペットボトルの店頭回収の位置づけの明確化という成果に。8月の学習会では、「イベントごみゼロ」を目標に掲げたロンドン五輪の取組みを国内の関係者と共有。

●工夫

3年間の取組み成果を広く社会に発信するため、今後、具体的な活動につなげる参考資料として冊子を作成。



課題

平成25年度からの各リサイクル法見直しに向け、EU各国の実施状況と消費行動を調査。NGO・事業者・自治体等、マルチステークホルダーで熟議し、連携して解決をめざす。

目標

熟議の場としてのマルチステークホルダー会議実施と、見直しに向けた提案。環境配慮に関する消費行動アンケートと普及啓発。2020年の大規模イベントにおける環境配慮と、それを契機とした持続可能な循環型社会構築。

活動内容

- マルチステークホルダー会議を25年度3回、26年度4回、27年度3回実施。
- 個別リサイクル制度の実施状況を、EU視察調査及び2012ロンドン五輪大会の環境配慮調査を実施し、マルチステークホルダー会議で報告。見直し議論の参考にした。
- 環境配慮商品と消費行動の全国アンケート調査と分析。
- NGO/NPO、事業者、一般向けに、2020年とその先の持続可能性学習会の開催と情報発信。



8月の学習会：満席の会場で熱心な質疑応答

達成できなかったこと

特になし。むしろ想定以上の成果として、各リサイクル法の見直し審議に活かすだけでなく、信頼関係が連携による相乗効果を生み、現実の社会システム改善案等につながった。

今後の展望

3年間の成果、信頼の環を活かし、2020東京五輪や、それを契機にした持続可能な社会構築に取り組む。